

【視覚に基づく慣性ナビ】 Apple

①要約：

このアイデアは、眼鏡型のデバイスに搭載されたカメラと加速度センサーを使用して、ユーザーの位置や方向を推定することで、3D マッピングを行い、物体の識別や迷子の財布の場所を特定することを可能にします。Apple はミネソタ大学と提携し、同特許を取得し、AR 対応のスマートグラスを開発する計画です。

②目的：

このアイデアの目的は、ユーザーが眼鏡をかけているだけで、自身の位置や周囲の物体を3D マッピングすることで、迷子の物を見つけるなどの様々な実用的な機能を実現することです。

③新規性：

このアイデアによる眼鏡型デバイスは、カメラと加速度センサーを使用して位置や方向を推定し、3D マッピングを行う新しいアプローチです。また、物体の識別や特定のための画像記録や履歴機能など、新しい機能も提案されています。

④独自性：

Apple がこの特許を取得し、ミネソタ大学と提携して開発を進めていることから、この技術の独自性が高いと言えます。特に、買収した会社が AR 関連のソフトウェア開発を行っていることから、AR 技術を活用した独自のアプリケーションも期待されます。

⑤経済価値：

このアイデアは、スマートグラス市場や AR 技術の普及に貢献する可能性があり、これにより Apple の製品ラインアップが拡大し、収益を増加させることが期待されます。また、3D マッピングを活用した新しいサービスやアプリケーションが生まれることで、経済価値を創出する可能性も高いです。